

科目名	地域フィールドスタディ(事業創造研究) Business Field Research		選択	2単位
学期・曜日・時限	春・火・6限		-	-
担当教員名	宮島 敏郎			
<p><講義の概要と目的></p> <p>学生が主体的に新潟の起業事例や優れた企業経営について、あるいは事業創造に必要な調査や研究を行うことを中心とした科目である。そうした調査や研究の手法として有効なフィールドワークの技法を伝授すると共に、実際に講義内においてその実践と結果の討議を行う。従って本科目では取り組むテーマを履修者自身が決め、個人あるいはグループで企業や現場に出向いてインタビューしたり参与観察を行ったりして、フィールドワークを主体とした調査や研究を行う。</p> <p>本科目で求められるのは、文献リサーチを行ったり過去の情報や理論から演繹的に答えを求めたりするのではなく、自ら現場に出向き観察や聞き取りによって得た1次情報から、帰納的なあるいはアブダクションを駆使した思考により答えを得ようとする姿勢である。本科目はデザイン思考の手法も取り入れ、履修者がフィールドワークや情報収集によって得た調査・研究の内容を逐次講義でレポートし、全員でディスカッションする。</p> <p>このような調査・研究・ディスカッションを通じて、起業志望者や企業人に求められる自律的な能力を身につけることを目的とする。すなわち、意義ある問題設定能力、問題を掘り下げるための調査・研究能力、問題の解決策を生み出す能力の三つである。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1週目 : フィールドスタディ概論① 意義あるテーマの選び方と、フィールドワークの基本的な技法・作法について講義する。</p> <p>2週目 : 調査研究テーマのディスカッション 各履修者の研究テーマについて、その意義や論点を履修者全員でディスカッションする。</p> <p>3週目 : フィールドスタディ概論② 仮説の立て方、ライブラリーワークについて講義する。</p> <p>4週目 : フィールドスタディ概論③ 漸次構造化法について講義する。</p> <p>5週目 : 調査研究テーマのディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>6週目 : デザイン思考 デザイン思考とフィールドワークについて講義する。</p> <p>7週目 : 調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>8週目 : 論点思考と仮説思考 正しい論点を立てることと、仮説を立てて思考することの意味について講義する。</p> <p>9週目 : 調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>10週目 : フィールドスタディ概論④ 最終報告書の書き方等について講義する。</p>				

<p>1 1 週目：調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>1 2 週目：調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>1 3 週目：調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>1 4 週目：調査研究内容のディスカッション 履修者が調査・研究の進捗状況を報告、履修者全員でディスカッションする。</p> <p>1 5 週目：最終プレゼンとゲスト・スピーカーによる講評 学内外から識者・論客を招いて最終報告書のプレゼンを行い、論評を受ける。</p>
<p><講義の進め方> フィールドワークと調査報告書の作成は、1テーマをチームまたは個人で行う。取り組むテーマはフィールドリサーチが可能であることが前提である。フィールドワークで行う調査研究の内容としては、企業や商品やサービスの分析、新規事業や企画の立案、企業で起きている問題の分析や解決策の立案、地域で起きている経済事象の分析や問題解決策の立案などが上げられる。調査報告書はワードまたはパワーポイントによる作成とする。インタビュー調査については教員もできる限り同行する。調査研究内容の経過報告に対して、クラスディスカッションを教員と全履修者で行う。</p>
<p><教科書及び教材> 講義資料は前の講義の終了時に配布する。</p>
<p><参考書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣 ・奥出直人『デザイン思考と経営戦略』NTT出版 ・小池和男『聞き取りの作法』東洋経済新報社 ・佐藤郁哉『実践フィールドワーク入門』有斐閣 ・佐藤郁哉『フィールドワークの技法～問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社 ・佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版』新曜社
<p><成績評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席6回以上は成績評価しない。 ・フィールドワークのレポート作成と発表（70パーセント）。 ・毎回の講義で行うディスカッションへの参加（30パーセント）。
<p><履修条件> 聞き取りを中心としたフィールドワークを、講義とは別に主に平日の日中に行うことが必要である。1回につき2～3時間程度を要するフィールドワークの時間を、最低2～3回は確保することが可能な人。</p>
<p><DVDによる視聴> 可</p>
<p><オフィスアワー> 火曜 17:00～20:00</p>
<p><その他> 講義日程の前半では、講義内で指定した文献の事前精読とレポート作成に、2～3時間程度の予習が必要である。日程後半の講義では、各自の研究データ作成のため2～3時間程度の予習が必要である。本科目は自分の課題のみに取り組むのではなく、他の受講生の課題についても積極的に意見交換することを基本とする。その意味も含め、学内SNSを連絡、情報交換ツールとする。</p>